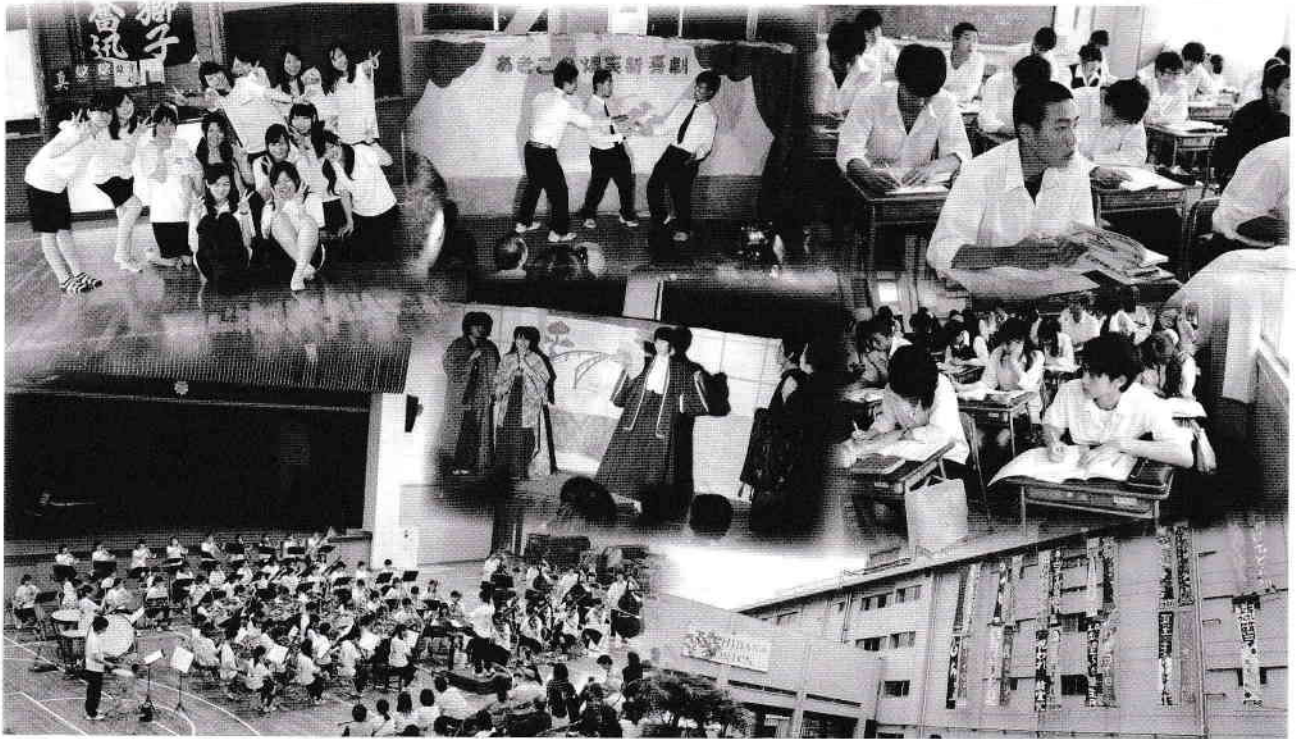


同窓会だより

発行
千葉県立船橋高等学校同窓会
 〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1
 ホームページ <http://homepage2.nifty.com/funabog/>
 E-mail funafuna55@nifty.com

印刷 (株)サラト
 姫路市北条宮の町172番地
 TEL.079-284-1380

題字／小原天簫先生



高校の思い出

異 正裕

今回この文章を書くにあたって、自分が在学していた頃の船高はどのようなところだったのか思いつくままに書き連ねてみたいと思う。

私が船橋高校に入学したのは昭和52年のことである。JRがまだ国鉄の頃で、学校の最寄り駅である「東船橋」駅もなく、当時通過していく総武線で学校が見えるたびに「ここに駅ができればすごく便利なのに」と思っていた。京成の駅も「センター競馬場前」という名前で鄙びた田舎くさい駅で、競馬があった日は外れ馬券がそこら中に散らばって、駅前の一杯飲み屋では大人たちが真つ昼間から酒を飲んでいた。

約30年ぶりに見る母校は、自分が在学していた頃とあまり変化がなく、懐かしさすら感じたが、あまりにも変わらなすぎに驚いた。教室、流し、洗面所、トイレ、各フロアにある研究室など当時の面影がそのまま残っていたので、自分が高校生に戻ったような錯覚を覚えたくらいである。さすがに教室の中にエアコンが入って、夏場は快適な環境で勉強ができるようになってはいたが、さすが船高、昔の物をそのまま大事に(ー)使っているなど感心した。

当時は8クラスが普通科で、1クラスが理数科。2年まではクラス替えはあったものの、文理に分かれるのは3年生からと今と基本的には変わっていない。ただ、文理の2つで文理はなく、理系はAからC組の3クラス、文系が残り5クラスという理系少数派だった。自分は文系のクラスだったが、当時の教育課程では数学・理科ともに数Ⅲや生物・化学・物理Ⅱのうちひとつ選択するなど、文系とは思えない科目も勉強させられたと記憶している。当時は柔軟性

があったのか、数学では数ⅠやⅡBの復習をしてくれたり、理科では実験とレポート作成のような授業をしてくれたりして、文系の生徒たちにも負担にならないように配慮もしてくれていたと思う。学校行事は文化祭・運動会・合唱祭、今と同様に盛んだった。今と違うところといえば、運動会は上グラウンドで行っていて、男子は組み立て体操を披露し、当時は痩せていたので、塔のてつぺんに登らされた記憶がある。合唱祭も今のように会場を借りることなく、体育館でそれは地味に歌っていた気がする。でもそれなりに盛り上がりはあったが、ただ今も昔も変わっていないところは、自分もそうだったが、一つ一つの行事に一生懸命取り組んでいることだ。このエネルギー、集中力がまさに受験につながっているのだと思う。

じきに百年を迎えようとする船高。そんな学校に在学でき、また教鞭をとることができたことに感謝し、これからもお役にたてるようがんばっていききたいと思う。

平成23年4月着任 昭和55年3月卒

同窓生 & 在校生 (平成25年10月1日現在)

同窓会会員総数 32,186人

名簿登載数 31,858人

内全日制25,971人、定時制4,881人、恩師1,006人

在校生

全日制 男562人 女417人 計979人

定時制 男160人 女116人 計276人

教職員 全日制79人 定時制34人 計113人

内同窓生13人

会長挨拶



同窓会会長
金子安雄
(昭和34年卒)

平成20年度から2期6年間会長を仰せつかってまいりましたが、8月の総会にて承認賜り、本年度末をもって小石前会長から引継いだバトンを子安新会長へ引継ぐこととなりました。在任中賜りましたご支援に改めて感謝申し上げます。

さて、この間、母校生徒の活躍と同窓会会員相互の交流親睦を願って会務に取り組んでまいりましたが、現職の先生の熱心な指導を拝見して参りましたし、同窓会行事への皆さんの熱心なご支援・ご協力も賜り、母校のそして同窓会の更なる躍進も見えてきたように思っております。また、在校生同窓生が一つになった母校創立90周年記念事業や同窓生の総理大臣誕生等々、時宜を得たこともあり、母校や同窓会への注目度は格段に上がったと感じております。とはいえ、思い描いていた目標にはまだまだ道半ばとの思いがありますし、取組むべき課題も残っていると思っております。しかし、百周年に向けて動き出した同窓会には若い力が必要となります。今後は子安新会長を中心に同窓会を前に進めていただき全国に異船の名前が轟くことを願うものであります。

9月には東京オリピック開催が決まり、2020年に向けて、日本が大きな一歩を踏み出しました。そして、この2020年は船橋高等学校の創立百周年の

記念すべき年でもあります。会員の皆さんには、この大きな目標に向け、同窓会活動に今まで以上のご支援ご協力をお願いするものであります。

今回、私とともに退任する天羽生副会長に改めて敬意を表しますとともに、母校と同窓会の更なる躍進を祈念し、紙面をお借りして、重ねて会員の皆さんに心から御礼申し上げます。

校長挨拶



校長
田山正人

本年4月に第20代校長として赴任いたしました。よろしくご願い申し上げます。

同窓生の皆様には、日頃、本校の教育活動に対し格別のご支援を賜りまして、深く感謝申し上げます。

「船高」は千葉県教育委員会から進学指導重点校の指定を受けて10年目を迎えることになりました。今後も、日々の授業の充実とときめ細やかな進路指導を図り、皆様の期待に応えてまいります。また、文部科学省からのスーパーサイエンス・ハイスクール（SSH）の指定も5年目を迎え、本年度が最終年度となりました。現在は、次年度からの指定が継続され、来年度以降も充実した教育活動が展開できるよう取り組んでいるところです。

ところで、先日、ある方が本校を訪れた

際に「大学の進学実績がいくら良くても伝統校とは言えない学校がある。社会の中で多くの卒業生がいろいろな分野で活躍している。そうした強みを持つている学校こそが真の伝統校だ。」と話をされました。この方は本校の卒業ではありませんが、私もこの話を聞き、そのとおりだと実感したところです。同窓生の皆様には、それぞれの分野で今後も一層、ご活躍されることを心から祈念申し上げます。同時に、そうした伝統の名に恥じない生徒を育てなければ、という意を強く持った次第です。また、本校の教育活動の現状等につきまして、皆様に情報提供をさせていただきますので、引き続き、船高の教育活動に対するご支援とご協力をお願いします。

着任の御挨拶



副会長
石塚由乙

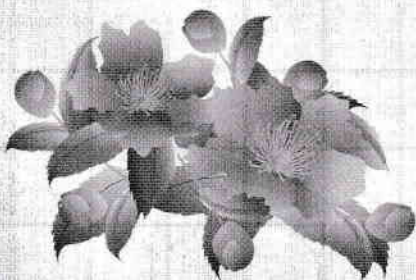
平成四年から十年間教諭として勤務していた本校に、慣れ親しんだ懐かしい思いとともに、初体験の定時制勤務に不安を抱えて着任いたしました。

「新しい職場環境に慣れましたか」と訊かれることがよくあります。これまでの生活時間とは異なるため、御心配いただいているのだらうと思うのですが、いつも「この時間常には慣れたくありませんね」と本音でお答えしています。夜にシフトしてい

る勤務時間は頭では理解しているものの、日々勤務してみるとなかなか厳しい状況です。職員も生徒もこの環境で一生懸命活動していることに脱帽の毎日です。

定時制に通学している生徒は実にさまざまです。年齢も一五歳から六〇歳代までと幅広く、小中学校時代に長欠傾向であった生徒の割合は約五〇%です。また、給食費などを自分のアルバイト代で支払う生徒など、経済的に厳しい状況の生徒もいます。支えてくれる家庭的な基盤が弱いため、一人一人の生徒がいろいろな課題を抱えているのも現実です。定時制四年間の高校生活を通して、生徒に何を伝えられるのか、どんな支援が必要なのか、そして、自立した人間として社会に送り出すために何ができるのか、定時制職員とともに微力ながら尽力していくつもりです。

同窓会の皆様には、日頃よりさまざまな御支援御協力をいただき、感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



平成26年

『春の同窓会』ご案内

実行委員長

正木昌治 (昭和47年卒)

平成26年春の同窓会の実行委員長を務めます昭和47年卒業の正木昌治でございます。

さて、春の同窓会も年々参加者が増え、昨年は参加者が300名を超え、野田前総理大臣にもご出席いただき、盛大な会となりました。

最近の県立船橋高校の発展ぶりには卒業生として誇らしく思われる方も多いのではないのでしょうか。千葉県進学指導重点校の指定を受け、益々進学実績が向上し、またスーパーサイエンス・ハイスクール研究指定校となり、理数教育では県下のリーダー的存在になる等、教育活動の充実には目を見張るものがあります。さらには高校生クイズや生物オリンピック等での活躍がマスコミでも話題となり、船橋高校の名前は全国区になりつつあり、嬉しい限りであります。

今年選暦を迎える私たち47年卒業生が幹事として準備を進めております。60歳は人生の大きな節目の年であり、また新たな出発の年でもあります。少しでも豊かで潤いのある人生につながるような会になればと願っております。様々な年代の先輩後輩や同世代の間と親交を深め、旧交を温める貴重な機会となるのではないのでしょうか。多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。

事務局からのお願い

2020年母校は創立百周年を迎えます。歴史を刻む一大イベントに向けて、記念事業、ロゴマーク、同窓会のできることを、やってみたいこと等々、ご意見、ご提言をお寄せください。

併せて、還暦学年の主管する春の同窓会の在り方や同窓会運営についてもご意見等お待ちしております。

また、引き続き、学年理事未選出となっている昭和56、59、60、61、63年、平成元年、平成3年以降の卒年の方、特に卒業時同窓会役員になった方、ご連絡をお待ちしています。

funafuna55@nifty.com

同窓会事務局までお願いします。

関東新人大会に出場して

陸上競技部 一年 喜多智世

私は十月に神奈川県相模原市で開催された関東高等学校選抜新人陸上競技大会の走幅跳に出場しました。走幅跳は助走してから跳躍し、踏切板からの距離を競う種目です。五月に行われた県の総体では、あと2cmで関東大会出場を逃して、その時に「新入戦では絶対に関東大会に行く」という明確な目標ができ、練習してきました。九月の県新人大会では夏の練習で痛めていた足も快復し、先生や先輩方、同級生の応援のおかげもあり、自己ベストを更新して二位に入賞し、関東新人大会の出場権を得ることができました。関東新人大会の当日は、初めての競技場や普段と違う雰囲気緊張気味だった私を、先輩方や同級生が支えてくれて、前向きな気持ちで大会に臨みましたが、風が強い悪条件の中、なかなか踏切板に助走を合わせられず、納得いく記録を出すことができませんでした。結果は九位で八位に入賞することができず、とても悔しい気持ちでいっぱいでした。しかし、「来年は関東で入賞する」という新たな目標ができました。支えてくれた陸上部のみんなに感謝して、これからも日々練習に励んでいきたいです。本当にありがとうございました。

関東コンクール 新潟りゅうとぴあ

合唱部 一年 塚副雄介

「県立船橋高校、金賞ゴールド！」八月十八日、千葉県文化会館に響きわたる歓声。直後僕は状況を理解できなかった。「三年生とまた関東コンクールで歌える。」だんだんと喜びがこみ上げてきた。

思い返せば、七月の合宿は昨年の関東コンクール直後に先生が予約して下さった、新潟りゅうとぴあで行った。三六〇度観客席で、響きのつかみにくいホール、地元でも「魔のホール」と恐れられているほど。やはり最初は戸惑った。うまく声が響かず、ブレンドしない。しかし、歌う位置を変えたり、順番に客席で聞くなどして、しだいに感覚をつかんでいった。

そして、冒頭に書いたように県を一位で通過、士気を上げ、吉田先生と32名で関東コンクールを目指して突っ走った。九月二十一日、再び新潟へ。緊張の色はない。練習してきたことを出すだけ！と意気込む。いよいよ本番。心から溢れる笑顔。その笑顔が個性を生み、美しいハーモニーを紡いだのだ。結果は「銀賞」。しかし、僕達はやりきったという達成感。他県の演奏を聴き、学ぶことの多い、とても有意義な関東コンクールだった。



最後に、関東コンクール出場にあたり、同窓会から過分なご支援を賜り、心から感謝申し上げます。



(株)東芝
福島理恵子氏
(平成元年卒)

グラスレス 3Dレグザ™ 商品化までの道のり

1971(昭和46)年東京都出身。東北大学理学部、同大学院卒業後、95年に東芝に入社。液晶材料の研究に従事する。出産を経て職場復帰。東芝独自の裸眼3Dディスプレイの研究に携わり、07年「映像情報メディア学会技術振興賞 開発賞」、10年「発明協会 全国発明表彰21世紀発明賞(第二表彰区分)」などを受賞。同年、日経ウーマン主催の「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2011」で大賞にも選ばれる。

多くの方は、はじめまして。私は東芝で研究者として働いています。配属された研究開発センターで二つ目に取り組んだ研究が、2010年に、メガネ不要の3D液晶テレビ(製品名:グラスレス3Dレグザ)として世界初の製品化につながったことから、多方面で表彰いただきました。そして、13年9月末に、懐かしい本校で講演、今回本誌への寄稿、という貴重な機会をいただきました。ついこの間のように思える高校時代から早25年、本質は当時とそれほど変わっていませんが、これまでの経験と自身の成長、今後についての思いをご紹介しますと思います。

小学校の時間割で、私の名前の一文字である「理」と書かれた理科の時間に親近感を感じたのが、理系科目を意識した最初です。船橋高校では「部活に所属したほうが成績が良くなるらしい」という噂を聞いて陸上競技部に所属(実際は一夜漬けを体得しただけでしたが)、筋トレ、腿上げ、短距離タツシユ、時々県大会と校内陸上競技会、という毎日を送りました(友人は高校時代の私を思い出すと赤いジャージ姿だそうです)。高校三年になって、男子は理系、女子は文系という風潮に逆らいたい気持ちでムクムクと湧いてきて、理系を選択しました。研究者としてやっていこうという気持ちになったのは、大学四年のときです。配属された研究室で昼夜問わずに実験に取り組み、楽しそうに議論を戦わす先輩方に出会い、私もこんな風な目的をもって物事に取り組む人間になりたい、と強く思いました。

大学院を修了、就職、希望の研究開発センターに配属され、意気揚々と社会人生活をスタートさせたものの、諸先輩方は優秀だし、電気全般に詳しくないし、「研究者としてやっていくには、テーマを自ら設定し、メンバーを牽引するようにならないといけない」と言われても、そんな自信は無くなる一方で、意識が変わったのは、育児休暇からの復職後です。「やりたいことがあれば提案しなさい」といつてくれる環境が与えられていること、価値がわかったのです。復職に理解を示してくれた家族への感謝もあり、「自らこの環境を選んだ」という意識が以前より強くなりました。復職してから取り組んだのが、メガネがなくても3D映像が見られるディスプレイの研究開発でした。勤務時間が限られたことで、仕事に優先順位をつけられるようになったことに加え、数人しかメンバーがいなかったことから、当時の上長が私を戦力として期待してくれたことが遣り甲斐につながるとともに、メンバーが家庭との両立に一定の理解を示してくれたことにも助けられました。ここで発明したいくつかの特許が全国発明表彰21世紀発明賞の受賞につながり、事業化に弾みをつけることになりました。

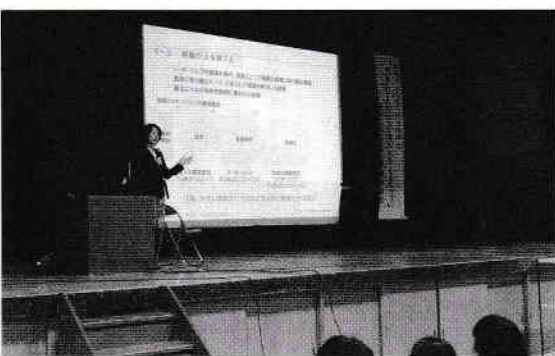
関係会社との量産検討が決まったときは本当に嬉しかったですが、その後は暗く長いトンネルのような時期が続き、研究段階に数台だけ手で組み立てる試作品とは異なり、量産構造は信頼性の保証とコスト低減という二律背反を満たす必要があります。歩留まりを保証するための作業には多くの人の協力が必要なことから、これを牽引するのは非常にストレスのある仕事でした。そんなトンネルを照らしてくれたのは、知見の異なるメンバーからの前向きな提案や考察結果でした。ここでの経験から、リーダーシップと、問題解決には多様なメンバーによる協力が不可欠であることを学びました。

ハリウッドが主導した3D映画の普及により「3D元年」とよばれた2010年初頭、社内展示会で裸眼3Dディスプレイの試作品を見た社長がテレビとしての早期製品化を判断したことによりプロジェクトが発足、世界初の製品化につながりました。量産構造確立に協力してくれた関係会社の理解と実力があつたからこそ、社長判断に即応できました。

振り返ると、製品化と自分の成長は表裏一体といえます。誰もが仕事と家庭を両立するべきとは思っていませんが、少なくとも自分は、多様性が認められる環境があつたからこそ、世界初につながる研究開発に関わることができました。多様性が認められる環境とは、制度ももちろんですが、勤務時間が限られていても負荷の高い仕事を与えてくれる、同じようにチャンスを与えてくれる、ということですね(そうすれば、自然と、男性の勤務時間の長さも改善されると思います)。

これまでの経験を踏まえ、今後自分がやりたいことはただ一つ、次世代の人達の負担を少しでも減らせる仕組みの創出です。再び本誌

※研究開発した裸眼3Dディスプレイについて、2005年「第57回神奈川県発明者案展覧会/川崎市市長賞」、「日本光学会/光設計優秀賞」、2007年「映像情報メディア学会/技術振興賞 開発賞」、2010年「発明協会/全国発明表彰21世紀発明賞(第一表彰区分)」、2011年「文部科学省/平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)」、「映像情報メディア学会/丹羽高柳賞業績賞」、2013年「日本液晶学会/業績賞」を、企業での研究開発業務と家庭の両立について、2010年「日経BP社/ウーマン・オブ・ザ・イヤー2011大賞」、2011年「PWC Women and the Economy Summit/女性イノベーター表彰」を受賞。



大学院を修了、就職、希望の研究開発センターに配属され、意気揚々と社会人生活をスタートさせたものの、諸先輩方は優秀だし、電気全般に詳しくないし、「研究者としてやっていくには、テーマを自ら設定し、メンバーを牽引するようにならないといけない」と言われても、そんな自信は無くなる一方で、意識が変わったのは、育児休暇からの復職後です。「やりたいことがあれば提案しなさい」といつてくれる環境が与えられていること、価値がわかったのです。復職に理解を示してくれた家族への感謝もあり、「自らこの環境を選んだ」という意識が以前より強くなりました。復職してから取り組んだのが、メガネがなくても3D映像が見られるディスプレイの研究開発でした。勤務時間が限られたことで、仕事に優先順位をつけられるようになったことに加え、数人しかメンバーがいなかったことから、当時の上長が私を戦力として期待してくれたことが遣り甲斐につながるとともに、メンバーが家庭との両立に一定の理解を示してくれたことにも助けられました。ここで発明したいくつかの特許が全国発明表彰21世紀発明賞の受賞につながり、事業化に弾みをつけることになりました。

関係会社との量産検討が決まったときは本当に嬉しかったですが、その後は暗く長いトンネルのような時期が続き、研究段階に数台だけ手で組み立てる試作品とは異なり、量産構造は信頼性の保証とコスト低減という二律背反を満たす必要があります。歩留まりを保証するための作業には多くの人の協力が必要なことから、これを牽引するのは非常にストレスのある仕事でした。そんなトンネルを照らしてくれたのは、知見の異なるメンバーからの前向きな提案や考察結果でした。ここでの経験から、リーダーシップと、問題解決には多様なメンバーによる協力が不可欠であることを学びました。

ハリウッドが主導した3D映画の普及により「3D元年」とよばれた2010年初頭、社内展示会で裸眼3Dディスプレイの試作品を見た社長がテレビとしての早期製品化を判断したことによりプロジェクトが発足、世界初の製品化につながりました。量産構造確立に協力してくれた関係会社の理解と実力があつたからこそ、社長判断に即応できました。

振り返ると、製品化と自分の成長は表裏一体といえます。誰もが仕事と家庭を両立するべきとは思っていませんが、少なくとも自分は、多様性が認められる環境があつたからこそ、世界初につながる研究開発に関わることができました。多様性が認められる環境とは、制度ももちろんですが、勤務時間が限られていても負荷の高い仕事を与えてくれる、同じようにチャンスを与えてくれる、ということですね(そうすれば、自然と、男性の勤務時間の長さも改善されると思います)。

これまでの経験を踏まえ、今後自分がやりたいことはただ一つ、次世代の人達の負担を少しでも減らせる仕組みの創出です。再び本誌

恩師探訪

無知の責任

宇山邦彦先生



船橋高校に赴任して来たのは昭和四十九年である。およそ四十年前のことになるが、新しく着任した教師は只一人であった。複数おれば、年上の者が代表して挨拶するのであるが、一人しかいない。何の話をしたのか記憶は定かではないが、言っではならぬことを言ってしまったようだ。新任式の会場には後に総理大臣となる野田君が、高校二年生としていた筈である。私としては生徒諸君が「崇高な理想を達成する」努力を惜しまない国民に成長することを願うての話だったと思う。

さて、終戦のとき、私はまだ零才であったから、戦争の悲惨さを体験してはいない。周りの

人々から誰言うことなく、戦争の恐ろしさ、悲惨さ、理不尽さを耳にした。まるで戦争に遭遇したかのような不安な気持ちで小

学生時代を過ごしていた。小学生高学年の時期に憲法前文を読んだ。国語力は十分でないから、まあ眺めたのである。強烈な印象であった。九条とこれに権利宣言の部分十何条までかを見て、やっと安心できたのである。九十九条では権力の側にある者

に対して、この憲法を尊重し、擁護する義務を課している。胸を撫で下ろしたものだ。中学生時代は少し電気に興味をもっていた。高校生になる前にアマチュア無線の免許をとった。高校生になり無線機作製に夢中になっていた。

真空管、トランス、抵抗器、コンデンサー等部品を集めアルミシャーシーに穴を開け部品を固定し、回路図に従い、結果はどうなるかわくわくしながら組み

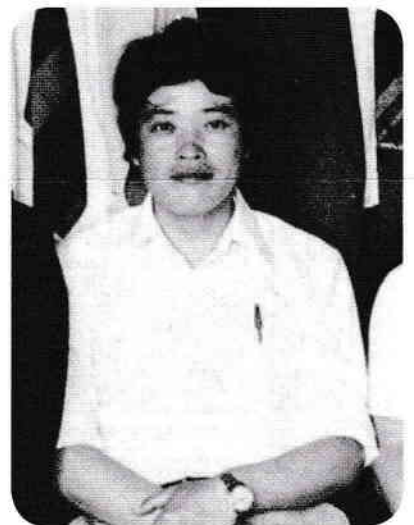
立てていた。

実際に電波を飛ばしハム仲間と交信をした。回路の抵抗値、コンデンサーの容量を決めるのに物理の知識が必要であった。夕焼けは何故赤い。光の波長に由来すること。電波の存在が分る電磁方程式。普段疑問に思っていたことが、数式を通して解明できるようになる。

そんなこんなで、数学をもっと勉強してみようかと、理学部で数学を学ぶこととなった。何日考えても解けぬ問題の山である。しかし辞めようとかという気持にはならなかった。むしろ不思議に楽しい気分でもあった。

楽しいものは伝えよう。我が身を立てるには教師もよいと思うようになった。しかし教師は生易しい職業ではない。生徒は未来を生きるための準備として学校で学ぶのである。ちよつと数学をかじったからといって、教師になつてもらつては生徒達が迷惑である。私は典型的理系でもないが、文科的素養にも乏しい。小学生のときの感動をより正確にするため社会科学系の勉強をしてから教師の道を進むことにした。

船高では楽しい教師生活を過ごさせてもらった。実に有能な生徒諸君ばかりであった。何事



自ずからトレーニングに励んでいた。別な言い方をすると、「正しく問題を発見する」こと、次に「正しく考え」、最後に「正しく行動する」ということになる。世界中には問題が山のようにあ

に対して、真摯に主体的にまいた積極的に取り組んでくれた。授業に対する態度も然り。高校の一步上を行く内容にも、実によく反応してくれた。本当に自己の確立のできている諸君が多かったことを記憶している。

船高最後の年に、アメリカの教育について視察する機会が与えられた。各地の小、中、高校を見た。小学生のうちからディベートの練習をする時間が授業として組まれていた。他の多くと同じであることが、安心に繋がる日本人と異なり、己れは他の人々とこのような点で違うと主張しなければ安心できない。こんな態度を育成する教育に、大変感心させられた。

また、部活動の顧問として、JRC(青少年赤十字)部を担当していた。JRCの合宿で、部員は「気付き」「考え」「行動する」を基本的な姿勢として、

る。食料について、日本の自給率は四割に満たないとか。水、エネルギー、地球環境、外交問題、限りがない。我々が問題を解決しようとするとき、次のような形式を使う。「PであるならばQである」、数学ではPを仮定、Qを結論といい、この形式を命題と呼ぶ。この「PであるならばQである」は、仮定Pが偽である場合には、正しい判断となつていないことに注意しなければならない。

三・一一日本に過酷な事故が発生。人災であると結論されているが、責任をとらされるのは国民である。

沈黙し、愚直なまでに耐える善良なる者に最後の責任をとらせる。ここにも問題がある。正しく考え、正しく行動をとるなら、少しは罪が軽くなる。

船高では楽しい教師生活を過ごさせてもらった。実に有能な生徒諸君ばかりであった。何事

新役員名簿

平成26年4月1日以降

名誉会長	三代川幹雄	昭和24年	会長	子安 啓司	昭和43年
名誉会長	小石 税	昭和30年	副会長	田辺 幸一	昭和41年定
名誉会長	田山 正人	校長	副会長	鶴岡 義明	昭和40年
顧問	齊藤 和夫	昭和20年	副会長	今村 麻美	昭和46年
顧問	林 昇志	昭和28年	副会長	島崎 喜一	昭和48年
顧問	金子 安雄	昭和34年	監事	小川 隆啓	昭和44年
顧問	天羽生 豊	昭和35年	監事	向井 廣志	昭和44年

《理事》S25 高田健、S28 花澤保夫、石井清八、S29 丹羽修幸、伊東信雄、S30 白井義章、S31 鮎川昌澄、塩田俊一、S32 田中穂、佐野利雄、中村嘉秀、藻谷文夫(定)、S33 小石裕久、松永修巳、岩谷達夫、S34 小石洋、興松勲、野村公平、S35 神谷卓哉、鳥光隆、上原幸子、福島真知世、S36 相澤友夫、田中茂(定)、S37 畠山三郎、芹川兵衛、S38 中野孝昭、並木日呂忠、S39 村松裕之、齊藤衛、立石光夫(定)、小池貞雄(定)、S40 藤白貴史、S41 溝留修二、手塚隆臣、S42 矢野光正、村田誠、生駒恵子、S43 蘇和雄、大野栄一、S44 小川佳延、S45 三村達、松野修一、S46 萩原成典、S47 正木昌治、飯山俊男、武井正、S48 田中幸栄、福西正博、S49 大浦成子、S50 森和俊、鶴田重男、S51 野田佳彦、寒竹郁夫、服部友則、S52 森島康長、谷口亨、S53 長谷川大、S54 森弘之、S55 坂間明彦、田中宏道、S57 荒井隆、S58 田所真紀子、S62 照屋壮仁、H2 清田篤、H4 石井文晴、H10 島田拓、H15 岡直樹、事務局理事 S42 高橋健二 S55 田中祥子 H2 清田篤

《現職員》副校長・石塚由乙、教頭・久門宏、三木信夫、事務長・福間正敏、校内事務局 S49 金子孝、堀浩、山田敏明、S52 高山雅夫、鳥飼一城、吉野深雪、S53 吉田昭彦、S55 巽正裕、S56 大堀孝宏、H4 田口亜紀子、H5 篠崎健太郎、H8 増田雄二、桃川悠一

事業報告・事業計画・総会報告等

本年度の総会は8月4日母校にて開催され、平成24年度の事業報告と決算及び平成25年度の事業計画と予算が別表の通り承認されました。また、平成26年度を初年度とする役員の改選及びそれに伴う会則改正も議題とされ、金子安雄会長、天羽生副会長の後任として、子安啓司新会長他新役員の選任が承認されました。なお、新たに理事が選出された学年がありますので、新役員と理事の名簿を掲載しました。

昨年度はご協力いただいた同窓

会運営費収入が増加(平成23年度分の会計処理分を除くと対前年度で60万円)したことや会報発行経費の縮減もあり、決算額は7%程増加しております。ただし、長期的には100周年記念事業も視野に入れた資金運用を見込まざるを得ず、引き続き運営費増額納入をお願いするものです。なお、昨年度の運営費を納入いただいた方の芳名録を添付しておりますので学年単位等で納入者の掘り起こしにご活用ください。

平成24年度決算及び平成25年度予算

1. 収入の部				
科目	25年度予算	24年度予算	24年度決算	23年度決算
繰越金	6,923,606	5,912,646	5,912,646	7,733,686
一般会計	6,923,606	5,912,646	5,912,646	6,134,766
特別会計	-	-	-	1,598,920
会費	6,234,000	6,216,000	6,964,120	5,852,720
入会金	1,134,000	1,116,000	1,080,000	1,098,000
春の同窓会	2,600,000	2,600,000	2,919,880	2,730,000
同窓会運営費	2,500,000	2,500,000	2,964,240	2,024,720
雑収入	6,000	5,000	5,542	1,298
雑収入	4,500	0	4,500	0
利息	1,500	5,000	1,042	1,298
合計	13,163,606	12,133,646	12,882,308	13,587,704
2. 支出の部				
科目	25年度予算	24年度予算	24年度決算	23年度決算
会議費	280,000	280,000	288,269	236,090
総会	80,000	80,000	73,209	4,000
理事会	200,000	200,000	215,060	232,090
需要費	390,000	390,000	276,322	204,205
通信手数料	150,000	150,000	104,600	124,245
印刷費	100,000	100,000	50,000	50,000
消耗品費	20,000	20,000	33,602	13,490
謝金等諸費	70,000	70,000	70,000	0
運営雑費	50,000	50,000	18,120	16,470
後援費	1,050,000	1,050,000	679,040	830,793
母校応援費	800,000	800,000	580,000	740,800
特別奨励金	100,000	100,000	0	0
卒業記念品	100,000	100,000	89,040	89,993
クラス会補助	50,000	50,000	10,000	0
銭別及び慶弔費	80,000	80,000	20,000	28,659
銭別金等	30,000	30,000	20,000	23,659
慶弔費	50,000	50,000	0	5,000
春の同窓会費	2,350,000	2,350,000	2,200,000	2,100,000
飲食会場費	2,000,000	2,000,000	1,850,000	1,750,000
幹事学年諸費	300,000	300,000	300,000	300,000
運営雑費	50,000	50,000	50,000	50,000
会報及び広報費	2,850,000	2,850,000	2,495,071	2,676,391
会報発行費	2,700,000	2,700,000	2,368,699	2,556,391
H.P.運営費	150,000	150,000	126,372	120,000
特別会計へ	-	-	-	1,598,920
予備費	6,163,606	5,133,646	-	-
繰越額	-	-	6,923,606	5,912,646
合計	13,163,606	12,133,646	12,882,308	13,587,704

五十七年ぶりの同窓会

去る二月西船フロアにて生物部尾瀬組の同窓会が初めて開催された。嘗て故小滝一夫先生に率いられて尾瀬の旅に出かけ貴重な体験を共有した部員たちの再会。十三名中九人が出席。中国深圳や仙台からも参加者あり。昭和三十年八月、わが生物部は尾瀬ヶ原特有の生物を観察するため、重いテント三張・五日分の食料・鍋・飯盒などを背負って三平峠を越えた。木道が未整備の湿原では脛までつかって一日七時間も歩いた。テント張りや薪集めや炊事、いつも笑い声が絶えなかった。小滝先生と三年生の小島・榎原さんの面倒見が良く下級生にとって最高に楽しい旅だった。

当時の写真と記録集を小嶋部長が丁寧に作成・保管してくれていた。



それを見ながら思い出話や卒業後の各々の人生を語りあつて有意義な時を過ごし、またの再会を約束した。小滝先生のお元氣なうちにこのような機会をもてばよかったと悔やまれる。 S.32 木村(紺野)久枝

船高生物部OB



S31、S32、S33 年卒の方々



おたより彼れはれ

●高橋 健二(昭和42年卒)

毎年9月第一土曜日、船橋十字路のイタリアンレストランにて42年卒学年会を開催。夜5時よりお待ちしております。詳細は高橋までTELを！

●奥永 俊哉(昭和58年卒)

毎年末に頂く同窓会をより楽しみにしております。卒業して30年、仕事や、ご近所で偶然同窓生の方とお会いする事が時々あり、母校も全国区になったと嬉しい限りです。厳しい世の中ですが、もうひとふんばりしたいと思っております。昨今です。

●岡崎 利英(昭和32年卒)

70才も半ばになりますが「二入登山コンサート」、映画、友人との交流など人生を大に楽しんでます。

●宮本 俊作(昭和26年卒)

諸活動、ご苦勞様です。現役生のクイズ番組など活躍、同じ学校のかな、と思ったりします。私事、体力を維持する研究が主。昭和1ヶ旬は平成へと大変な情勢を体験。まだ続きます。

●馬渡 博実(昭和41年卒)

3年の時の三浦先生お元気ですか？横浜で40年間教員として頑張ってきました。先生の世界史の授業、今でも覚えています。おかげで社会科大好き教員になりました。

●寺崎 朝子(昭和58年卒)

野田総理の辛抱強さに自分も仕事を粘り強く頑張ろうと願われました。江川昭子さんも含め、地味だけど信念を持って生きている人が多いと誇りに思います。

●安川 一(昭和41年卒)

3・11で浸水した家屋の取り壊しが進んでいる一方、その空地更地が目立ってきました。復興はこれからです。船高の発展を祈念申し上げます。

●瀬戸 由紀(旧姓木村)(昭和60年卒)

同窓会編で、懐かしい先生や先輩、同級生たちの近況をうかがうことが楽しみです。

●中 恵子(旧姓木瀬)(昭和36年卒)

昨年11月3日36歳で、古希を初め、会が行われ、10回生に参加し懐かし顔を会えてとても楽しい一時を過ごせ思い切つて出て来てよかったな〜と思えました。

●谷口 信子(旧姓斎藤)(昭和36年卒)

同窓会より楽しみに読んでおります。同窓会の活躍応援しております。昨年高校生クイズ、テレビの前でくっつけ、がんばりました。

●田島 徳子(旧姓大川)(昭和28年卒)

30年間発行したタウン誌「ザ・ながさき」休刊しました。現在、ブックバックをやっております。長崎へおいでの際はぜひお立ち寄り下さい。長崎の中心部にあります。

●佐藤 嘉勇(昭和20年卒)

旧制中4年卒です。公務員兼公務員通算57年経歴年金暮らしです。スポーツ(硬式テニス)を30年余、84歳を経た今プレイを楽しんでおります。

●近藤 利昭(昭和36年卒)

同窓会より毎回送って頂き有難う御座居ます。全般的にうまく、なつかしく又船高出身者が活躍している事も大誇りに思っています。生きている事も喜んでいます。

●清水 佳子(旧姓新彦)(昭和47年卒)

事務局業務大変ご苦労様です。会報楽しく又、懐かしく読みました。船高の名を見聞する機会がふえ、頼もしく思います。今年遠慮ですが、私の方は、実母の世話しながらデイサービスとレクリエーション、ボランティアで舞踊を披露したりしております。

●加津間 博子(旧姓三國)(昭和34年卒)

同窓会より25号の表紙の写真、若く力強い声が聞こえるようです。私が応援されているように努力して下さるおたより彼れはれ、楽しく読ませていただいております。

●鈴木 桂子(昭和30年卒)

孫が船高に入り私達の頃は進歩など力が入り、私達はのんびりしている時代です。私達はのんびりしている時代です。私達はのんびりしている時代です。私達はのんびりしている時代です。

●野田 永夫(昭和44年卒)

岩田さん、お疲れ様でした。よく頑張ってくださいました。まだまだお若いのですから、再度の総理の座をめざしてください。

●三浦 守(昭和34年卒)

在学時は木造できれいな校舎ではありませんでした。今は校舎も立派な野田総理大臣を始め、校舎も活躍されている皆さんを誇りに思います。

●伊藤 正子(昭和37年卒)

同窓会より、ありがとうございます。高校野球は、県大会で決勝ラウンド負けした事もあり、毎回テレビで応援しております。岸立船橋高校の名を口に出せる機会でもあります。

●新開 重雄(昭和49年卒)

高脚車という区別が実際と全然合わない感じの65才になりました。再雇用の4年間も昨年東京アイズ21の年間パスポートを持っていて、よく出かけています。

●奥石 さだ子(旧姓斎藤)(昭和41年卒)

TVで拝見した高校生クイズ、後輩のガンバリに感激しました。

●渋谷 英輔(昭和38年卒)

同窓会より第25号の表紙の応援風景の写真に30年前の応援風景のキキョウに驚くばかり。昨今は女性もいるのですね。又82才になりました。相模原先生いつもお元気です。

●安斎 伸子(旧姓藤竹)(昭和34年卒)

毎年の同窓会だより、を楽しみにしています。

船高時代図書委員会卒の和やかな語らいの時や夏に登った山々を懐かしく思い出します。皆様お元気ですらして下さい。私も元気です。小井土 清(昭和25年卒) 元気かい。

●青大根相友会(会費諸君)

「水は街に至り、野は広し、我が学舎」の校歌で過ごした船高時代の学生時代に教育を受けた恩師も昔懐かし。毎年年末になると同窓会の喪中葉書を手にします。学校も大分世界し人生は何時、終わりになるかわからず、不安を寄せれば切りがない。毎日、健康で心豊かな人生こそ、最も大切と感謝しています。

●畑中 恵(昭和60年卒)

同窓会より第25号に「上云の櫻井先生の記事が載っていました。おたより彼れはれに記載されました。私も工夫を凝らして一人での指導で、陶芸をしました。私がつくって先生に持ってもらう。小便小僧の形をした急須はまだ実家の風箏にかけようとしています。

●石田 寛(旧職)

同窓会より第25号「おたより彼れはれ」に記載された通り本年も続行。マスターズ区分上選手権大会3連覇目連覇。ちなみこの区分の100m17.23は自己新記録、さらに更新をめざしたい。ただ、他の趣味(詩吟、民謡、木彫)の伸展にも力を入れたい。皆様もご活躍ください。

●井下 勝代(旧姓矢野)(昭和35年卒)

同窓会委員長を始め、事務局の方々、毎年、ありがとうございます。昨今では、親の介護で自分の時間をとれませんが、また自分自身も体の調子を気遣う毎日です。運営費負担はご負担いただきありがとうございます。

●高田 巨(昭和29年卒)

「同窓会だより」は船高の諸活動を知る唯一の情報源となっています。かつての高校生活の思い出を新たに、生きる力を与えてくれます。毎年5月25日は、定例の「宇宙ルーム」の日、「喜寿」を迎えた私たちの仲間と話し合いたいと思えます。

●沼田 佐智子(旧姓田原)(昭和34年卒)

江東区に住んでいますがバルコニーから東京スカイツリーが見えるのです。夜はライトアップされて本当に素敵です。朝晩眺めているだけで幸せな気分になります。

●高田 純志(昭和36年卒)

同窓会より第25号の編纂、発行、ありがとうございます。毎年12月、心待ちにして、懐かしく読んでいます。卒業して早や41年、会誌をリタイヤして10年、今年古橋を迎え、同期の仲間と自分達を知りました。

●野田 理香(旧姓大川)

野田理香、クイズ大会優勝等、先輩後輩の活躍、嬉しく思っています。

●片桐 順子(旧姓飯田)(昭和37年卒)

戦後の平和な日本に生きてきた私たちの世代も今年は古希。50年前の船高で一番楽しかった思い出は秋の運動会の坂競争。8クラス中1位はわがクラスの「世界の平和」/その発案者が、当時、口をきいたことになった織田さんで、今、なんと35年間同じ大和市内に住んでいらつしやるのが、50年後の今、わが町D.V.Dになった。その8ミリがビデオにしておいた。その時、私の手元にあります。観たい方はT.B.Eを！

●私学(保彦)(昭和27年卒)

私学を毎年ならつて可成経ますが、ほん紙執筆、学芸活動で忙しさをわけています。11月12日は放送大学千葉学習センターで講義をしました。

●春田 修(昭和43年卒)

船高時代はアルバイトをやっていて卒業ではあまりいい思い出はありませんでした。そして高度成長時代に働いただけで平成22年3月に定年を迎え今は体を休めています。又船高も90周年を迎えこれからも母校の発展を祈念します。

●篠塚 潔(昭和43年卒)

43年卒の同窓会(同期会)を毎年6月第二土曜日に開催しています。(東葛橋本館で毎年開催。詳細は各クラス幹事まで、私が全体のとりまとめをします。

さまざま現場で母校およびその卒業生の活躍を見聞するにつけ、嬉しくまた誇りに思います。昨夏の野球の県大会では強豪市船に勝利したことで、もしや甲子園と心躍らせたもので、一生のうちには是非一度アルプスタンドで応援したいです。

●秋山 尚功(旧職)

秋山尚功、船高の活躍をTV等で毎日のように見ながら、船高教壇生活を楽しんでいます。小生健康に恵まれ趣味ながら「白首北面」の毎日を楽しんでいます。学芸ながらの愉しさを実感。

●久保 和秀(昭和44年卒)

剣道部の専用道場がなく、狭い体育館で他の部と共に活動してました。

●徳本 悟(昭和43年卒)

定年になって早3年、60の手習いで始めた人狼の夢(空を飛ぶ)IIパラクワイター、冠雪した神々のばかりの富士を眼前にしたアライは至福でした。

●根岸 晋(昭和32年卒)

私は、現在「歴史」や「歴史」を調べています。次は、事務局の方をいつもお世話様です。これからもなかなか行けませんが出来ればよろしくおねがいします。

●小林 義子(旧姓山梨)(昭和41年卒)

幹事の皆様、ご苦労様です。今回も諸事情に依り出席できませんが、いつも母校で過ごしたことは懐かし思い出しております。母校の益々の発展を願っております。

●伊藤 鷹一(昭和28年卒)

2月26日、恩師高橋春雄先生と母校へ。11年ぶり2度目の母校訪問は、先ず校長先生より御挨拶いただき、続いて「天一流伝伝尾藤信」による演武を男女剣道部の皆さんと二階に見ました。後輩諸君と感動の時間を共にできたことは、我々にとって無上の喜びでした。

●私学(保彦)(昭和27年卒)

今後は来10月恩師米寿、我々春寿の合同祝寿会のゴルフに向かいますが、ゴルフ同好会、旅行クラブが誕生しクラブ会は形を変えてさらに活動が盛んになりました。

●毎週ご好評いただいております。船高の歴史は、小川信雄先生昭和38年卒のご都合により今回休載させていただきます。



編集後記

平成二十五年の夏は猛暑と言わなければならないが、この夏の暑さに負けずに熱かったのがテレビドラマ、「半沢直樹」と「あまちゃん」でした。ネットの普及や多趣味化が進んだ現代で、視聴率40%超えの「半沢直樹」は大ヒットと言え、超えの「あまちゃん」は数字では表れない人気があります。三年クワラの担任として、テレビを見ていない受験生相手にドラマの話は遠慮して「あまちゃん」ファンが増えているようでした。1日15分のドラマが、受験生にとつての息抜きになっていたようです。中には登録前に7時半からのBS放送を視聴し、担任に「先生、大変！今日は夏ばつぱが」と内容をばらそうとする生徒もいて、日々苦勞しました(笑)。「半沢直樹」は「倍返し」の台詞に象徴される勧善懲悪も人気の秘訣でしょうが、何よりも自分の正義と信念を貫き続けた主人公の生き方に、今の多くの日本人が何かを感じたのかもれません。一方の「あまちゃん」も、つねれに前向きで行動力のある主人公と、その主人公を暖かく支える周囲の人々から、笑いや感動と勇気をもたらした気がします。残念ながら受験生だった三年生達にも、受験が終わったらいつかい見てもいい二作品でした。気がつけば、層の上ではディセンバー。受験生の勝負の時が近づいてきました。半沢直樹の妻よろしく、「せつて！負けんじやねろ」と背中を押したいと思えます。頑張れ受験生！頑張れ船高生！

毎週ご好評いただいております。船高の歴史は、小川信雄先生昭和38年卒のご都合により今回休載させていただきます。